

患部冷却装置付き脱毛機

再三にわたって、「患部冷却装置」の付いていない「脱毛機」では、脱毛効果が満足の行く「結果」が得られない！と話しています。

脱毛を行ううえで、この「患部冷却装置」は、「必須」です。

東京都の「脱毛に関する安全基準」にも、設置が義務づけられています。

しかしながら、この「患部冷却装置付き脱毛機」は、あまり出回っていないのも「現状」です。

当院の「脱毛機」2台は、それぞれ、この「患部冷却装置」は標準で設置されています。

でも、いくら「患部冷却装置」がついていても「火傷」の危険性が「ゼロ」ではありません。ついでに「脱毛機」では、「火傷の危険性」は、測り知れません！

火傷を回避する為には、「熱エネルギー」を下げなくてはなりません！

でも、熱エネルギーを下げれば、今度は「脱毛効果」が十分得られません！

ここが、一番頭を悩ませるところです！

皮膚の色が「黒い肌」は、表面のメラニン色素に「熱エネルギー」が吸収され「皮膚表面が火傷」します！

軟毛(産毛)を脱毛する為には、やはり「熱エネルギー」を上げなくてはなりません。

しかし、その分「表面のメラニン色素」に反応し、やはり「火傷」の危険性が増します。

その上でも「患部冷却装置」は必須なのです。

下の写真は、私の腕の「火傷」です。

「患部冷却装置」の付いた「脱毛機」で37ジュールと言う「熱エネルギー」で照射しました。



それでも、「火傷」が起こります！

もし、「患部冷却装置」が付いていなければ、この37ジュールと言うエネルギーでは、到底照射出来ないし、(付いていても火傷したのですから…)

思うに…いい所20ジュール前後の「熱エネルギー」くらいしか、照射出来ません！

しかし、この20ジュールくらいの、「熱エネルギー」では、「温かい」程度のハズです。

これでは、脱毛効果は期待出来ません。

ましてや、皮膚の色が黒い場合や、細い毛には、全くもって「打つ手なし！」です。

冷却ジェルで「冷す！」と言う手もありますが…皮膚温によってジェルを塗布した瞬間なら、いざ知らず、塗布して数十秒でも経過すれば、それも何の意味も持ちません！

さらに、冷風機で、冷たい風を送りながら「照射」する手もありますが…

車でも、エンジンの熱を上がらないようにする「ラジエーター」と言うのがありますが、これは「水冷式」です。

「風冷」では、冷え切らないので「水冷式」にしてあるのです。

だから、「冷風機」で、皮膚温を下げるには、「限界」があるのです。

「火傷にならない、脱毛法なのよ～当店は～」

ってうたったり、

「肌に優しいから、熱くないの！だから火傷の心配はないのよ～」

って言ってみたり…

そんな、「夢のような脱毛法」は、断じて！

あ・り・ま・せ・ん！